

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3571000193		
法人名	有限会社 メディビス		
事業所名	グループホーム げんきむら		
所在地	山口県光市島田2丁目22番11号		
自己評価作成日		評価結果市町受理日	平成26年6月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成25年12月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・連携病院が隣にあり、随時職員が通院介助を行い、連携している看護師が利用者の様子を把握しており、看護面でのサポートも充実おり、ご家族が気軽に寄れる様安心して、頂いていると思います。
 ・年1回は、交流会として、家族と利用者が一緒に半日旅行に行ける。また、その時に、家族と職員との深いコミュニケーションを取れるレクなども取り入れている。(個別で対応することもある：墓参りなど)
 ・1日の利用者全員分の情報を1枚の情報シートに、全職員で記入し、情報の共有化に努めている。また、それは、常に2週間分を残し、過去の情報も共有できるように努めている。
 ・正職員が担当利用者を持ち、ケアプランをもとに、独自のフェイスシート、カンファレンスシートを活用し、一人ひとりの長・短期目標の立案、評価を職員会議で話し合い、利用者のニーズ、状態の把握、周知に努めている。
 ・馴染みの場所を頻繁にレク等で行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議に、毎回、他事業所の職員の参加を得ておられ、意見交換や情報交換に努められておられる他、地域メンバーの働きかけにより、地元の中学生との交流につながり、徘徊ネットワーク模擬訓練実施のポスターの作成や地域との交流の幅を広げられるように取り組まれるなど、運営推進会議を活かした取り組みをしておられます。利用者の思い出の場所へのドライブ、毎日の買い物、併設病院の音楽会で毎年挨拶をされるなど、利用者の楽しみごとや活躍できる場面づくりの支援をされている他、年1回家族も参加される日帰り旅行では、利用者や家族、職員との交流の場として連携を深めておられます。三食とも事業所で食事づくりをしておられ、献立から買い物、調理、後片付けを利用者と職員と一緒にされ、旬の食材を使い、利用者と職員は会話しながら、同じものを食べておられ、食事を楽しむことができるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい			○	2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の方々と交流を深めていくことを大切にし、明るい笑顔と挨拶を忘れずふれあう」という理念を掲示し、会議でも出し、それを共有して日々のケアに取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義をふまえた法人理念と、事業所の理念「笑顔、元気、やさしさ」を事業者内に掲示し、会議や日々の業務の中で全職員で共有し、理念の実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に参加したり、ボランティアの方に来て頂いたり、地域運営推進会議などを活用し、地元の人々と交流している。	地域行事の普賢祭、季節の花まつり(冠梅園)、ひかり祭りの子供みこしの見学に行っている他、協力医療機関の敬老会に参加して幼稚園児のお遊戯を観覧している。ボランティア(よさこい、腹話術、紙芝居)の来訪や実習生を受け入れている他、日々の買い物時や散歩時に地域の人と挨拶を交わすなど交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の系の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活躍している。	地域運営推進会議において認知症についての理解を広めている。また、多くの実習生を受け入れ実際に認知症の利用者さんと触れ合う事で理解や支援の方法を学んで頂いている。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価作成後は会議で周知し、また、なぜ外部評価を行うのかを説明している。また、外部評価結果や改善策も会議を行い、検討、実施している。	評価の意義についてで説明し、全職員に自己評価をするための書類を配布し記入してもらい、会議で話し合い、作成している。改善に至るまでの意見は出ていない。日々の業務の中で、常に自己評価に結び付けて考えるように努めている。		
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、市の職員、民生委員、利用者、職員等で近況報告、提供しているサービスの説明、外部評価結果、施設内見学等を行い、意見交換し、サービス向上に活かしている。	毎回、他事業所の職員の参加を得て、年6回開催している。避難訓練、事故・ヒアリハット報告、事例検討などをして、意見交換をしている。メンバーの働きかけで地域の中学校との交流を計画し、中学校の生徒に徘徊ネットワーク模擬訓練実施のポスターを書いてもらって事業所内に掲示するなど、意見をサービス向上に活かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当課には、日頃から行き来し、また、市主催の研修会や、連絡協議会に参加したり、他に、事業所主催の研修会に市の職員が参加したりし、サービスの向上に活かしている。	市担当課と、運営推進会議の他、地域連絡協議会(年3回)で情報交換したり、電話や直接出向くなど日頃から協力関係を築いている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な施設内研修により、職員は拘束について、正しく理解しており、拘束をしないケアに取り組んでいる。	11項目の禁止事項をクイズ形式で出題して具体的に正しく理解できるように工夫したり、研修で学び、職員は玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な施設内研修や、虐待防止マニュアルを事業所内に置き、虐待の仕組みや倫理等を理解し、また防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な施設内研修により、成年後見制度の制度や、仕組みを理解し、家族からの相談にも対応している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、施設内見学を含め、管理者、ケアマネ、職員での利用者、家族の質疑応答により、理解・納得を図っている。また、改定時には面談での説明や質疑応答に応じ、同意書を用いて理解を深められるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談、苦情の窓口を決め、受けた内容や対応を各職員が閲覧出来るようにしている。	相談、苦情受付シートを作成し、処理手続きを定めている。電話や面会時、年1回の家族交流会で家族の意見を聞いている。家族からの意見で、私物チェック表を作成し、利用者の持ち物を把握するように改善しているなど、意見を反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1か月に2回の会議の場で職員と意見交換をし、提案等の意見を尊重し、利用者、また職員員の環境整備に努めている。	毎月、併設事業所との合同会議や事業所会議を各1回開催し、職員の意見や提案を聞いている。衛生に関する意見や介護記録の様式の見直しなど改善をしているが、運営に反映させるまでの意見は出ていない。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正職員も数を確保し、有給休暇の確保、資格手当、残業手当を設けている。また年2回評価をし、上司との面談を活用し、向上心を高められるよう努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の施設内研修により、知識や士気を高め、事業所外の研修は出勤扱いにより、研修参加を促している。 また、研修案内も回覧とし、職員が研修を選べるができる。	外部研修や法人研修の情報を伝え、段階や希望に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。今年度は受講者はいない。内部研修は、技術指導会議計画を立て概ね月1回実施している。多くの実習生を受け入れ、職員は教えることでさらに知識を深めているなど、働きながら学べるように取り組んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小規模多機能の職員と交流を深め、地域密着として、共にレクリエーションを企画し行う機会を設けている。また、市主催の連絡協議会等を活用し意見交換に努めている。運営推進会議に他事業所の職員が参加し及び職員が他事業所の運営推進会議に参加し意見交換に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	あらゆる話題や全職員からのコミュニケーションを取りながら、本人から話してもらえるよう思いを引き出している。また、積極的に関わり笑顔を引き出せるよう努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	全職員が家族と話せる事で、家族が心を開いて話せるよう努めている。また、雰囲気づくりや環境を提供できるよう努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人の要望を第一に考慮し、必要とされている支援を見極めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理の味付けを見てもらったり、散歩、買い物、会計やその他家事等、一緒に行い、時には利用者に全て行ってもらいながら、学んだり、支えあう関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた時は歓迎し、また、相互作用により、信頼関係を高めている。 家族との外出も協力し、家族と過ごせる時間を増やせるよう努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人が訪れたり、馴染みの場所に外出したりして、また、日頃から話題を出したりして、その関係が途切れないよう支援に努めている。	家族や友人の来訪、散歩や買い物時、受診時に知人と出会い会話をしたり、家族と一緒に外食や外泊、法事に出かけている他、ドライブで、自宅や以前勤めていた職場、子供のころに住んでいた場所に出かけるなど、馴染みの関係継続の支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソファや長椅子等を置いたり、また利用者同士が向かい合うような椅子の配置にしたりして、職員が会話できるよう援助しながら、利用者同士で関わり合えるよう努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係を断ち切らず、いつでも相談に応じられるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人の思いや希望を把握に努め、また、困難な場合も家族からの情報を得て、共有し、本人の思いに沿った介護が出来るよう努めている。	日々の関わりの中で、利用者から出た言葉などを介護記録に記録し、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族の意見も聞き、利用者本位に検討している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から、昔の生活状況、現在に至るまでの生活環境等を得て、一人ひとりに合ったサービスを提供できるよう努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	希望に沿って外出したり、体調の把握、変化に気を配り、できる力を見極め家事を行ったりと、一人ひとりの一日を把握また、その人に合ったサービスの提供に努めている		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回にケアカンファレンスを開催し、本人・家族の希望、担当者の意見、ケアマネの意見、医療関係者の意見等を取り入れて話し合い、全職員で共有し、介護計画を作成している。	毎月1回ケアカンファレンスを開催し、本人や家族、利用者の担当職員、医療時関係者等の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。期間に応じた見直しをしている他、状態に変化があれば、その都度現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やそれに対するアプローチ・結果等を個別で記録し、また、申し送りやノートを活用し共有しながら、次のステップに繋げている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関への定期受診の送迎、緊急時の昼夜の受診、自宅への外出や墓参りなど、その時の要望に応じて柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	積極的に外出することによって、地域との関わりから地域資源を把握し、また来所しやすい環境整備をし利用者の生活の質が上がるよう支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診、検査の他に緊急時医療機関と連携し、受診出来るように努めている。受診結果は家族に報告している。	利用者、家族の希望するかかりつけ医の受診を支援し、受診結果は家族に報告している。他科受診は家族の協力を得て支援をしている。連携施設内の看護職や医療機関と連携し、緊急時の対応に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携施設内の看護師とその都度、相談、指示を受け、適切な受診、看護を受けられるよう努めている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と協力、情報交換に努めている。日常生活に早く戻れるよう担当医と話が出来ている。利用者入院時には全職員が定期的に様子を観に行き、情報交換も行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期を迎えた場合は、家族や医療機関、職員で話し合い、方針を共有している。また、契約時に重度化に対する事業所の方針を伝え理解を得ている。連携施設内の看護師とも連携し、日常生活の情報交換できるよう取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた方針を、契約時に利用者と家族に説明している。実際に重度化した場合は、かかりつけ医や家族、看護職、関係者等で話し合い、連携病院への移設も含め方針を共有して、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	マニュアルを作成し、ヒヤリハット・事故報告書に記録し改善策を検討し、未然に防げるよう周知、徹底に努めている。また、急変、事故発生時に備え、施設内研修を行い、訓練を行っている。	マニュアルを作成し、ヒヤリハット・事故報告書に記録し対応策をその場で検討している他、状況によっては会議でも話し合い再発防止に努めている。内部研修で応急手当や初期対応の訓練を実施しているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間想定含め消火・避難訓練を実施し隣接する事業所にも声掛け、参加協力をしていただいている。 運営推進会議にて、民生委員、自治会にも声を掛けている。	年2回、昼夜想定で避難訓練を実施している。運営推進会議でも議題に取り上げ、隣接する保険会社の社員の参加を得るなど、協力関係を築いている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修やマニュアルを活用し、一人ひとりを尊重した対応をしている。また、日々気になる言葉かけは注意し、誇りやプライバシーを損ねないよう努めている。	マニュアルを活用し、内部研修で学んで、職員は利用者を自分の親という思いで、一人ひとりを敬い自尊心を傷つけない言葉かけや対応をしている。入浴時や排泄時、日々の言葉かけに配慮し、気づきがあればその都度指導している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	開かれた質問により、自己決定できるよう努めている。また、思いを伝えられたり、汲み取れるような関係づくりに心がけている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなスケジュールはあるが、体調や要望に臨機応変に対応し、一人ひとりのペースを崩さず、1日1日が楽しく安心して過ごせるように努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感のある服装を着用促し、好きな服装で過ごしてもらえるよう支援している。また、起床時着替える際、身だしなみに配慮している。また、月1回ネイルアートを行っている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い出しから調理手伝い、片づけまで利用者とともに行えるよう努めている。時には、外食やお弁当を作り野外での昼食を取り入れ、月1回手作りおやつと誕生日会イベントごとのお寿司等、また、職員も同じ時間に同じものを食べ、コミュニケーションを取りながら、食事を楽しめるよう支援している。	三食とも、事業所で食事づくりをしている。献立から買い物、調理(野菜の皮むき、切る、味付け)、後片付けまでを利用者と職員と一緒にしている。職員も同じものを一緒に食べている。お団子やかき氷、ホットケーキ、おはぎ、ケーキつなどのおやつづくりをしたり、お弁当をつくってお花見に出かけたり、外食や喫茶店にソフトクリームを食べに行くなど工夫して、食事が楽しめるように支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療機関受診時に、栄養バランスの指導を受けている。また、食事量や水分摂取量を個別に記録し、必要量確保できるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促し、職員が見守りや一部介助など行うことにより、口腔状態の把握、本人の力に応じた口腔ケアを支援している。また、夜間は必ず義歯を洗浄し、職員が消毒が終わるまで保管し清潔も保てるよう努めている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを把握し、排泄が無ければ定期的に声掛けや誘導にて促している。また、食前食後に誘導したりと、排泄しやすいタイミングにも配慮している。	介護記録に記録し、排泄パターンを把握して、声かけや誘導でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を使用したり、乳製品を使用したりと、食材やメニューを工夫している。また、散歩や買い出しなどで、歩いてもらったり、レクリエーションに体操を取り入れたり、自然排便できるよう取り組んでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴する時間帯は大まかに決めているも、利用者の希望や、状態によって日々臨機応変に対応している。また、昼の時間帯で入浴することで、万が一の事故時でも受診や看護師と連携でき、安心して入浴できるよう支援している。	毎日14時から15時30分までの間入浴可能で、希望や状態に応じて入浴できるように支援している。時々入浴剤やみかんを入れて、入浴が楽しめるように工夫をしている。入浴をしない時は、清拭や足浴等で対応している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息時には、ソファ等誘導し午睡しやすい環境を整え、活動時のフロアと就寝時のフロアを分かれていることにより、睡眠リズムが調整できることや日中とのメリハリにより安心して眠れるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、看護師と情報共有できており副作用、用法、用量について理解している。また、表を作成し利用者一人一人の薬の数や種類を全職員が共有できる環境整備をしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレク、外出や買い出し等家事手伝い以外にも、行事を設け1年を通して楽しみ事や気分転換が出来るよう努めている。	七夕飾りの飾りつけ、短冊づくり、七夕まつり、花火、そうめん流し、ドライブ、お寺参り、誕生会、交流会、花見、クリスマス会、初詣、うどんづくり、クッキーづくり、ぜんざいづくり、七草粥づくり、福笑い、豆まき、リハビリ体操、しりとり、かるた、トランプ、将棋山崩し、風船バレー、ボーリング、お手玉、ぬりえ、習字、買物、食事の下ごしらえ、洗濯物干し、洗濯物たたみ、テーブル拭き、お盆拭き、下膳、歌を歌いながら体操、新聞を読む、仏教雑誌を読む、敬老会の司会をするなど、楽しみごとや活躍できる場面づくりの支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は希望に応じ行い、ドライブでは出身地や市外まで出かけたり、本人の希望や家族の協力で墓参り、一時帰宅、家族との外出など支援できるよう努めている。	散歩や買い物、季節の花見(バラ、桜、紫陽花、紅葉)、ドライブで利用者の思い出の場所に出かけたり自宅周辺に出かけている他、家族の協力を得て、墓参り、法事への出席、外食、外泊など出かけられるように支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し、必要に応じて、少額を持ち使用できるよう支援している。また、買い出しなどでレジで使用してもらうなど、お金の使用方法を忘れない工夫も図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話ができる。また、手紙のやり取りができるよう、一緒にポストまで投函に行ったりし、家族や友人とコミュニケーションが取れる実感を持てるよう支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには、ゆったり座れるソファを設置したり、広く使用したりと配慮し、温度・湿度調整に努めている。また、ベランダからの日差しや、台所からの音や匂いで五感に働きかけ、居心地良く生活感を感じられるよう努めている。	共用の空間は、明るさや温度、湿度に配慮し、冬場の乾燥にも注意している。食卓テーブルの配置を工夫し、台所からは調理の音や匂いがしている他、季節を感じられるように空間や壁の飾りつけをしている。リビングのソファや畳みスペースでゆっくりと寛ぎ、居心地良く過ごせるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長ソファ、2掛けソファ、各自個別のテーブル席、畳の部屋で一人一人に合った居場所を提供できるよう工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具や、自分だけのもの、プレゼントなどを各居室に設置することにより、プライベートな空間を提供できるよう工夫している。 また、本人の希望により2人部屋でも可能。	使い慣れた筆筒や衣装掛け、生活用品、テレビ、ぬいぐるみ、家族の写真などを持ち込み、一人ひとりが居心地良く過ごせるように工夫している。希望に合わせて2人部屋にも対応している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやスロープ、個別の設備や道具を設置しているが、ケアカンファレンスなどを通して一人ひとりのリスクマネジメントをを話し合い、対応することで、安心かつ出来るだけ自立した生活を送れるよう支援している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームげんきむら

作成日：平成 26 年 6月 10日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	全職員が実践力を身につけるための応急処置 や初期対応の定期的な訓練の継続	全職員が、応急処置、初期対応の訓練、事 故報告・ヒヤリハット報告書の実例検討実施	月1回の、職員会議にて、枠を設け対応策、実 例検討の実施、かつ、応急処置や初期対応の 順序の把握に努める	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。